浜坂南小新聞

6年生が作った新聞です

未来へつなぐ　戦争について学ぶ

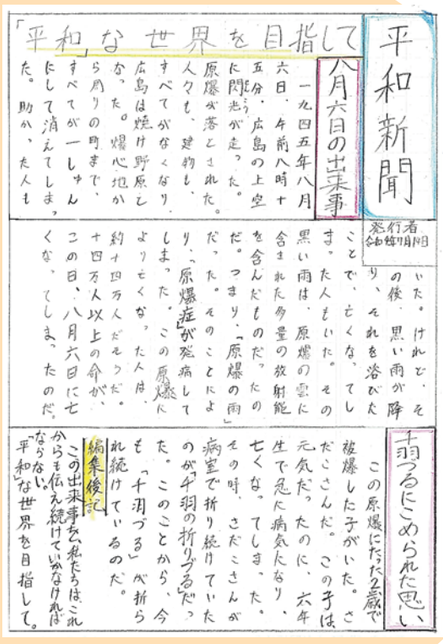
6年生は「未来に発信～つなぐ～」というテーマで、総合的な学習の時間に平和学習に取り組んだ。

まずは、戦争と平和について絵本やDVDを見る学習から始めた。その後、自分の課題をもち、調べ学習を行った。一人一人、自分の考えたテーマに沿って調べることにより、自分の課題について深く考えたり、そこから新たな課題を見つけたりすることができた。

今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため広島への修学旅行に行くことができなかった。そのため、地域の方に学校に来ていただき「戦争と平和」についてお話を聞きながら、学習を進めた。

たくさんの学びのなかで「もう二度と戦争を起こしてはいけない。原子爆弾をなくさなければならない」「今の平和を守り、平和な世界を創るために自分にできることをしたい」という気持ちを高めた。

（大田菊乃、中村公星）



学んだことをまとめて作った「平和新聞」

高森拓也さんとナインナインアウンさんに来校いただき、「命と世界の平和」についてお話ししていただいた。

■大切な命■

高森さんは、さまざまな国々での体験をたくさんの映像を交えながら話してくださった。世界には、生まれて間もなく亡くなってしまうたくさんの命があることを知った。

日本では、当たり前にある病気から赤ちゃんを守るワクチンのない国があるそうだ。ミャンマーでポリオワクチンを援助する活動をされた映像を見せていただいた。

動物の命についてのお話を聞かせていただいた。モンゴルでは、お客さんに羊料理を出すそうだ。そのために生きた羊を解体し、羊の命がうばわれる。動物や植物からもらった大切な命だから、食べる時は感謝しないといけないと思った。「いただきます」「ごちそうさま」の意味が分かったので、忘れずに言いたいと思った。

外国からの援助を必要としている国が世界には、まだたくさんある。高森さんは、食べ物や薬、日用品など生活に必要なものを支援物資として届けているそうだ。外国の人々の平和を守る活動をしている人が身近にいることにおどろいた。世界が平和になるために自分たちにできることもあると思うので、考えていきたいと思った。

■ミャンマーの今■

ナインナインアウンさんは、ミャンマーで生まれ約13年前に小学校、中学校に通いたくてもできない、まともに勉強することも、友だちと遊ぶこともできない日々を過ごしている子どもたちもいる。そこには、大きな声を出したり、外で遊んだりする「自由」すらないそうだ。

攻撃から身を守るために、土の穴にかくれ、身を守っている子どもたちの実際の映像を見せていただいた。たくさんのヘリコプターや攻撃の音に耳をふさぎ、みんなでお経を唱えながら肩を寄せあっている姿があった。「死んでしまうかもしれない」という恐怖を感じながら過ごしている子どもたちの存在を知った。とても恐ろしいと感じた。

ミャンマーでは、どんなに努力をしても仕事につけない現状があることも知った。今の日本の平和は、たくさんの方々の努力によって築かれてきたということも教えていただいた。自由に声を上げて遊び、勉強もできることがありがたいことだと思った。

最後に、夢や明るい未来があることの幸せを感じ、努力することを約束してほしいとのメッセージをいただいた。

お話を聞いたり、映像を見たりした人は「平和を守り続けるために自分たちにできることを考えるきっかけになった」「今、自分たちが学べたり、平和でいられたりするのを当たり前だと思わずに、命を大切にしながら生きていこうと思った」と語っていた。

（岡坂夢暉、河越ショーン悠太、砂連尾優月、山口健心）

平和のありがたみを知る

高森拓也さんとナインナインアウンさんに聞く

ミャンマーの現状をナインナインアウンさんから聞く

忘れないため伝えていく

新温泉・正楽寺　郷司昌賢住職に聞く

新温泉町にある正楽寺の郷司昌賢住職に来校いただき、戦争当時のお話や広島から受け継いだ平和記念公園の「平和の灯」、「被爆アオギリ」にたくされた平和への思いをお話ししていただいた。

■恐ろしい戦争■

戦争中の貧しく、苦しい生活など、資料をもとに当時の状況を教えていただいた。また、日本は世界で唯一の被爆国であり、広島と長崎に落とされた原爆は、数千度もの熱でいっしゅんで人々や建物を消してしまうとても恐ろしい核兵器だと分かった。

「約14万人」というように、もし自分の命が「約」という数字で片付けられてしまったらどう?とたずねられた。今まで考えたことがなかった。これまで約何人と使っていたが、亡くなってしまった「命」の数え方にすると悲しくなった。

新温泉町で亡くなられた方がのった本も見せてくださった。大庭地区に住んでいた人でも戦争に行き、亡くなった人が大勢いることを知った。その本には、一人の人間が生きていた証しがちゃんと残っていた。

当時の国民がかぶっていた防災頭巾も見せていただいた。実際に防災頭巾をかぶった山口健心さんにどう思ったのかインタビューしてみた。山口さんは「こんな薄い布で守るのは無理だと思った。防災頭巾には、持ち主の名前と血液型、誕生日、住所を書くところがあった。死んでしまうこともあると分かっていたのかなと思った」と話した。

お話を聞いた人からは「戦争がここまでつらいことだと分かっていなかった。恐ろしい戦争が二度と起こらないために、伝えていかないといけないと思った」と感想があった。

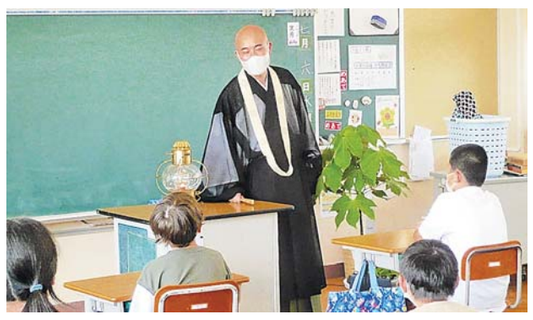
■平和の灯■

広島の平和記念公園の「平和の灯」の分灯を見せていただいた。実際に広島から分けていただいた灯だそうだ。

郷司住職は、20年間欠かすことなく週に1回、本堂に置くランプに灯油を入れて分灯を管理している。地震が起きれば夜中でも様子を見に行き、抱えて外に出たこともあったそうだ。その管理は、大変だ。でも「この灯を気にすることが、戦争を思い出し、語る大切なきっかけになる。時代は変わっていくが、守れる限り守っていきたい」と話してくださった。また「この灯を消すときは、核兵器が世界からなくなったときだ」と話された。

明かりを見ながら複雑な気持ちになった。核兵器や戦争のない平和な世の中になってほしいという気持ちでいっぱいになった。しかし、戦争を語り継ぐ人がいなくなってしまうのではないだろうか。この灯にたくされたたくさんの人の願いが絶えてしまわないだろうか―と。

私たちは、コロナの影響で広島に行くことができなかった。平和記念公園の「平和の灯」を見たい、資料館に行ってもっと学びたいと思った。


平和の灯やアオギリについて説明する郷司住職

■被爆アオギリ■

被爆アオギリとは、原爆で焼けたが、その後も成長を続け、新芽を出した木だ。「100年緑が生まれない」といわれたなかで、芽がでたのはきせきだと郷司住職は話された。

アオギリの芽が出たとききっとたくさんの人々の希望になったんだろうと思った。これからも平和記念公園で「平和を愛する心、命あるものを大切にする心」を人々に伝えていくために、生きていくのだと思った。

教室に持って来てくださったアオギリは、青々と伸びていた。広島市から旧温泉町に贈られたものの子孫だそうだ。被爆アオギリを次の世代へ伝えていくことは、原爆や戦争のことを伝えていくこと、平和について考えることにつながっていると教えていただいた。

（大田二瑚、澤田莉斗、寺口海來）

学んだことを語り継ぎ　全校生への発表会行う

戦争によって、建物がこわされ、町がこわされ、自然がこわされた。そして、たくさんの人が死んで、心と体に傷を負い、悲しい涙を流した。戦争は、大切な家族、大切な友だち、大切な人をたくさんうばった。ぼくたちは、戦争について学習して、人間の命が、生きてきた存在が、数としても記録されないほど悲しく、恐ろしいものだという現実を知った。

戦争を起こさないためには、戦争について正しく学ぶことが大切だと思った。「もう二度と戦争を起こしてはいけない」という強い思いを、みんながもつことが大切だ。そこで、「戦争と平和」について考えてもらうために、ぼくたち６年生が学んだことを全校生へ伝える発表会を行った。関心をもってもらえるように、各学年にあう絵本も選んで読み聞かせを取り入れて発表した。どの学年も、真剣に聞いてくれた。

その後、さまざまな感想が寄せられた。「日本に原爆が落ちて、たくさんの人が亡くなったことが分かった。戦争がない国になってよかった」（１年生）「今、戦争をしているロシアやウクライナも戦争をしない平和な国になってほしい」（４年生）「暴力ではなく、話し合いで解決することが大切だと思った。自分もそうしたい」（５年生）

「戦争と平和」について学んだことを他の学年の児童に伝える６年生

全校生が平和の大切さを感じてくれたことが伝わる感想が届いた。とくに５年生は、来年、修学旅行で広島に行く予定である。戦争と平和の学びをもっともっと深めて、ぼくたちができなかった平和記念公園で「平和の誓い」を宣言してきてほしいと思う。そして、全校生へ学んだこと、感じたことを語り継いでいってもらいたい。

ぼくたちもより多くの方々に「平和」について考えてもらえるよう発信していきたい。そして、みんなで平和を守り続けようという気持ちでいっぱいにしたい。

（井上陽太、森場俊介）

広がる「思いやり」　浜坂南小平和憲法

これまでの学習を通して学んだことを自分たちの生活につなぐために社会科で学習した憲法にした。私たちの身近にある「平和」とは何かを考え、話し合い、みんなで憲法として完成することができた。みんなで創ったこの平和憲法を、ふだんの生活の場で、最高学年として全校生の先頭に立って頑張ると決意を新たにした。

浜坂南小学校平和憲法

第１条　戦争の恐ろしさと平和の大切さを語り継ぐ。

第２条　小さな努力、頑張りを大切にする。

第３条　周りのことに気づき、笑顔で生活する。

第４条　人にやさしく、自分も大切にした言動を心がける。

第５条　当たり前のことに感謝し、一日一日を大切にする。

笑顔とやさしさ　あふれる学校に！

今年は「人権の花運動」に参加し、1年生と協力して花の苗植えを行った。草花を育てることを通して、命の尊さについても学んだ。全校生や来校される方々にきれいに咲いた花を見て笑顔になってもらえるよう、水やりなどの栽培活動に取り組んだ。

自分の身近な人たちに喜んでもらえる活動となった。6年生が先頭となって優しさと思いやりを広げることができた。

（大田菊乃、中村公星）

水やりをするなどして「人権の花」を育てる

● 編集後記 ●

出来事をまとめて、分かりやすく書くのが難しかった。様子が伝わりやすいように、聞いた人の感想を取り入れて書いた。（井上陽太）

新聞の文章を考えて書くのは難しかった。自分たちがどんなことを学んだのかを分かってもらいたいと思って書いた。（大田菊乃）

読者に分かりやすく伝えるために、できるだけくわしく書いたが、実際に書いてみると難しかった。友だちと対話しながら推こうすることでより分かりやすくできた。（大田二瑚）

新聞記者の方々は、毎日、さまざまな記事について取材をして書いているが、大変な作業だと感じた。この新聞を読んで、平和を願う人が一人でも増えてほしい。（岡坂夢暉）

読み手に伝わるように書こうとすると難しかった。この新聞をきっかけに、戦争と平和について考える人が増えてくれたらうれしい。（河越ショーン悠太）

教えていただいたことを一つ一つ思い出しながら書いた。友だちと話し合うことで良い記事にすることができた。（澤田莉斗）

平和についての学習をした自分の心情を新聞で伝える文章を書くのは難しかった。でも、学んだことを伝えたいという気持ちで書いた。（砂連尾優月）

新聞記者の皆さんは、分かりやすくまとめて書いたり、ひきつける見出しを考えたりすることを、毎日続けられているのはすごいと思った。（寺口海來）

自分たちの学んだことを相手に伝わるように書くのが難しかった。戦争を知らない人たちにも分かってほしいと思って書いた。（中村公星）

自分たちが体験したことや考えたことを分かりやすく書くのは難しかった。戦争や平和について興味を持ってもらいたいと思って書いた。（森場俊介）

みんなで協力したから仕上げられた。この新聞を読んで「やっぱり平和な世界がいい！」と思ってくれる人がいたら、とてもうれしい。（山口健心）

学校概要

【学校名】新温泉町立浜坂南小学校
【所在地】兵庫県美方郡新温泉町栃谷402―3
【校長名】秋山　次彦
【児童数】68人
【校　訓】「強く、賢く、美しく」

【学校教育目標】
「ふるさとを愛し、こころ豊かにたくましく生きる大庭ひたみちっ子の育成」
―元気　やる気　思いやり―

▼ひたみちっ子の像

【沿　革】
1874（明治7）年に小学校栃谷校として開校し、1947（昭和22）年に大庭小学校に改称。2004（平成16）年の旧浜坂町学校再編成で閉校し、浜坂南小学校に校名変更した。

2019（令和元）年には、田君川の環境保全活動など、特色ある優れた実践が評価され兵庫県教育委員会よりグリーンスクール表彰を受ける。21（令和3）年よりコミュニティスクール制度を導入。

教育に新聞を　NIE　Newspaper in Education